

神田外語大学 言語科学研究科講演会


『“共感”から見た日本語のアスペクトと ヴォイス（試論）』

講師：金水 敏（きんすい さとし）教授
放送大学大阪学習センター所長／特任教授

2022年12月3日（土）
15：00～16：30

会場：神田外語大学 幕張キャンパス
クリスタルホール
※オンライン同時配信あり（申込要）

参加費
無料

- 対象 言語研究、言語教育に関心をお持ちの方
- 使用言語 日本語
- お申込み 下記URL、またはQRコード（）からお申し込みください。

<https://forms.gle/1KfSRSNk79L1Qj7V9>

- お申込み期限：11月29日（火）
 - ・オンラインでのご参加の場合、事前申込み必須となります。登録のメールアドレス宛に接続先等の詳細をご案内します。
 - ・幕張キャンパス（対面）でご参加の場合は、事前の人数把握のため、事前申し込みへご協力下さい。（必須ではありません）

同日13:30～14:30 本学大学院説明会を開催いたします。詳しくは以下をご覧ください

☑神田外語大学大学院 入試説明会 <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/opencampus/extension/>

お問い合わせ（大学院担当）：✉ infograd@ml.kuis.ac.jp TEL 043-273-1320

要旨：

本講演では、心理学で言う“共感”（empathy）がどのように言語表現に関わるかという問題を、日本語のAspectとヴォイスのいくつかの現象を手がかりに探っていく。共感（久野（1978）『談話の文法』）にも取り上げられているように、いわゆる“視点”の現象と深い関係にあるが、共感の種類、あるいは“深さ”を仮定することによって、視点現象への理解が深まることが期待される。具体的には、

(1) 田中さんはハンバーグを作っている。

のような、限界動詞（終了限界が語彙的・文法的に決められている動詞）の持続相における“未完了形のパラドックス”の問題と、

(2) 田中さんは山田さんにSNSで悪口を書き込まれた。

のようないわゆる“迷惑受身”の問題を中心に取り上げる予定である。

予測される議論として、(1)において話し手は「田中さん」の動作における“プラン”を共有しなければ(1)を発話することができず、この点において「田中さんはベンチに座っている」のような非限界動詞の持続相と共感の深さが異なっているということを述べる。

また(2)では、「山田さんは田中さんの悪口を言った」という能動文から視点を「田中さん」に移した表現であると言われるが、(3)に示されるように「田中さん」の内面（迷惑を感じる）までは表現しておらず、話し手が田中さんに“同情”すれば使用可能になることを示す。

(3) 田中さんは山田さんにSNSで悪口を書き込まれたが、そのことを田中さんはまったく知らない。

しかし“同情”という話し手の情動を伴うかともなわれないかという点で、次のような非・迷惑の受身文とは“共感”の深さがことなると言わねばならない。

(4) 田中さんは父親に手を引かれてバーจินロードを歩いた。

以上のような分析を重ねることによって、「共感無し（例：無意思的变化の叙述）＜浅い共感（例：単純な身体動作の叙述）＜中間的共感（例：同情／プランの共有等）＜深い共感（例：内面の共有）」のような共感の序列と、対応する言語表現のリストを構成することを目指す。

『“共感”から見た 日本語のAspectと ヴォイス（試論）』

金水 敏

放送大学大阪学習センター所長／特任教授



講師プロフィール：

放送大学大阪学習センター所長（特任教授）

日本学士院会員

大阪大学大学院文学研究科名誉教授（国語学）

元大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
長（2007.4～2011.3）

元大阪大学大学院文学研究科長（2016.4～
2018.3）

専門：日本語文法史・役割語研究